

**【校訓】**  
すなおに・ただしく・はつらつと・たくましく

**【学校教育目標】**  
なりたい自分を求め、自ら考え判断し、行動する生徒の育成

**【目指す生徒像】**

○すなおに	明るく、心すなおな生徒
○ただしく	礼儀正しく、思いやりのある生徒
○はつらつと	新たなことに進んで活動する生徒
○たくましく	物事を最後までやり抜く生徒

心が通う「挨拶」 心を伝える「拍手」 心に響く「歌声」

**【学校経営の重点キーワード】**  
「自律と共生」～社会へ踏み出す力づくり～  
◆自律～PDCAを意識しながら、自ら行動する力  
◆共生～違いを理解し、共に支え合って生きていく力

**特色ある教育活動**

- 多様性の尊重
  - ◆「自律」と「共生」を大切にした学校生活  
自己決定・自己肯定感・共感的人間関係
- 学ぶ意欲を高める「南中型授業」の推進
  - ◆「直耕タイム」を生かした、考える授業
  - ◆3つの「あ」を大切に、生徒の声や思いが響き合う授業
- 生徒会活動の充実
  - ◆生徒会テーマ「瞬輝明乱」を意識した諸活動の推進
- 社会とのつながり、自己の生き方を考える
  - ◆「なりたい自分を求める」社会へ踏み出す力づくり、地域と連携した学校教育

**効率的な組織運営**

- 組織的な学校運営の確立
- 教師の授業改善
- OJTによる個のスキルアップ
- 教育環境の整備

**評価**

<b>学校運営の状況</b>	自己評価Aと学校運営委員会評価の評価区分	きわめて良好 良好 概ね良好 やや不十分 努力を要する	自己評価Bの評価基準	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く成果も顕著
				4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
				3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
				2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
				1	目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い

<b>生徒の状況</b>	自己評価Aと学校運営委員会評価の評価区分	きわめて良好 良好 概ね良好 やや不十分 努力を要する	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
				4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
				3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
				2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
				1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

# 1 学校運営・学校管理

学校の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント	
教育目標の具現に向けて、教職員がチームとして機能している。積極的・協働的に安全・安心な学校づくりと教育活動が推進されている。それらの学校運営や学校管理に保護者や地域と連携して取り組んでいる。	中間	概ね良好	概ね良好	運営状況はよく、全職員の協力で高い意識で取り組んでいると思われる。熊対策、安全指導などもしっかり行われている。改善案が明確に示されているので、結果に表れることを期待している。特に多くの先生方が課題と感じている「各分掌・担当者間での連絡・調整」の改善策を後期の運営に生かしてほしい。学校報を毎回届けてくれるのがありがたい。学校生活や学校行事の様子がよく分かって見やすく、読んでいて楽しい。
	年度	概ね良好	良好	教職員がいろいろな面で協議しながら教育活動に取り組んでおり、改善に向けた意識が高まっている。総合的に見ると、教育活動に様々な工夫が見られ、職員間の連携も取れている。「地域とともにある学校づくり」のデータを見ると、職員・保護者ともよい結果が得られている。また、学校報などによるタイムリーな情報発信で、地域の人たちも学校の様子をよく知ることができている。

## 自己評価の改善概要と

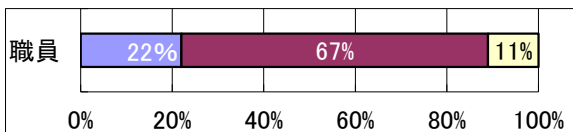
**【中間(→年度)】**  
 最も問題となっているのは①である。各教職員は自分の職務・業務に対して責任をもって取り組んでいると認識しているが、より組織的な実践を目指したい。そのためには、④の連絡・調整が最重要課題であると考え、「運営委員会」→「指導部会」→「職員会議」の流れをつくることで、長期的な見直しと計画を明らかにし、各指導部・学年部のタテヨコの連携を強化して実践に取り組みたい。また、実践終了直後に簡単な振り返りを行い、次回の計画を即時手直しすることでPDCAサイクルを構築したい。②については前半の取組を継続し充実を図る。④の教育課程や日課、会計については昨年度の課題が改善されてきているので今後も見直しをもった早めの提案をコミュニケーションを大切にして取り組んでいく。

**【年度(→次年度)】**  
 各項目のアンケート結果について、達成率(%)を中間評価と比較すると、教職員は中間評価よりもやや下がっている項目が多く、保護者と生徒は上がっている。4段階評価の平均値については、教職員、保護者、生徒ともほぼ同じ数値となっている。教職員は、「自分は」と捉えて回答するか「学校全体は」と捉えて回答するかで結果が異なること、ごく少数であるため一人当たりの割合が大きくなること、など、このアンケートの課題も見えてくる。  
 (1)については、PDCAサイクルをより機能させ、必要に応じて教育活動や校務分掌の見直しをして経営改善を図っていく。  
 (2)について、特に運営委員会の目的ともち方を再確認し整理した。長期的な見直しと計画は、中間よりも少し改善されたと感じる。しかしながら各教育活動が全職員の共通理解による共通実践であったかという点では課題が残る。職員個々の考えを、協議という形で声に出して確認しながら、確実な実践につながるよう改善していく。また検討中の「チャレンジ55+」を含む「総合的な学習の時間」について、年度内に決定できるように案を示して協議を続けていく。会計については、課題点を明らかにしながら慣例に捉われず運用した。後援会賛助金の在り方や予算執行についても抜本的な見直しを図られたことは大きな成果であると考えられる。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	中間	年度
(1)運営・管理	① 組織的・機能的な学校運営	重点と具体的施策の明確化と共通理解 PDCAサイクルを生かした共通実践 主体的な経営参画	4	4	
	② 安全・安心な学校づくり	危機管理と安全確保 施設・設備の管理・維持 安心な学校生活のための外部機関との連携			
	③ 地域とともにある学校づくり	学校報、学年通信、PTA会報、HP等による情報発信 PTA・後援会、学校運営協議会、保小中連携事業、地域コーディネーターとの連携の充実			
(2)企画・調整	④ 教育効果を高める校務・庶務	創意ある教育計画立案 日課の設定と運用の工夫	3	3	
		諸会議の機能的な計画と内容の見直し 各指導部・学年部との連絡・調整 適正な諸帳簿管理 見直しをもった予算獲得と配分 適切な運用 適正な会計処理 チームでの適正な会計管理			

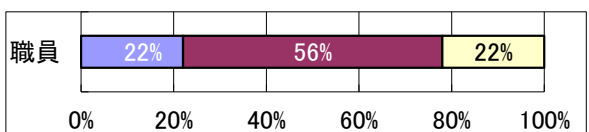
### ①に関するデータ

職員：経営方針や重点施策の具現を目指し、PDCAサイクルによる効果的な組織運営、協働体制による共通実践のために主体的に取り組んでいますか。(3.1→3.1)



### ④に関するデータ

職員：創意ある教育課程が編成・実施され、授業時数の確保、諸行事の精選と工夫など、効率的な取組がされていますか。(3.2→3.0)

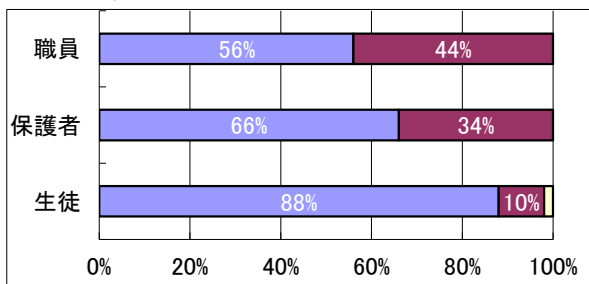


### ②に関するデータ

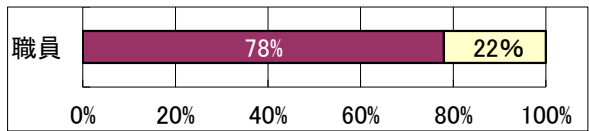
職員：「命を守る」ための安全指導や危機管理(感染症や熱中症対策、クマ対策等)を適切に行っていますか。(3.5→3.6)

保護者：熊対策、安全指導、避難訓練、施設設備管理など「安全・安心な学校づくり」が行われていると思いますか。(3.5→3.7)

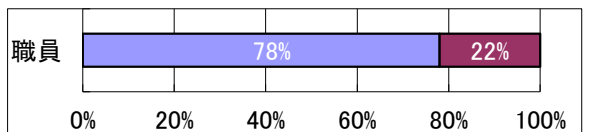
生徒：あなたは、「自分の命は自分で守る」など、安全を意識した生活を心がけていますか。(登下校・避難訓練・不審者や熊対策など)(3.8→3.9)



職員：各分掌・担当者間で調整を図り、年間予定を見据えた会議の企画や資料の事前確認などを行っていますか。(2.8→2.8)



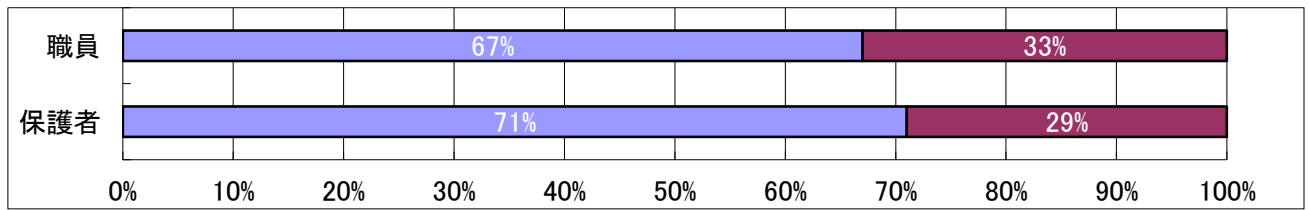
職員：事務職員との連携により、私費会計の適切な執行や事務処理負担の軽減、施設設備管理等が効果的に行っていますか。(3.8→3.8)



■ よい ■ だいたいよい ■ やや不十分 ■ 不十分

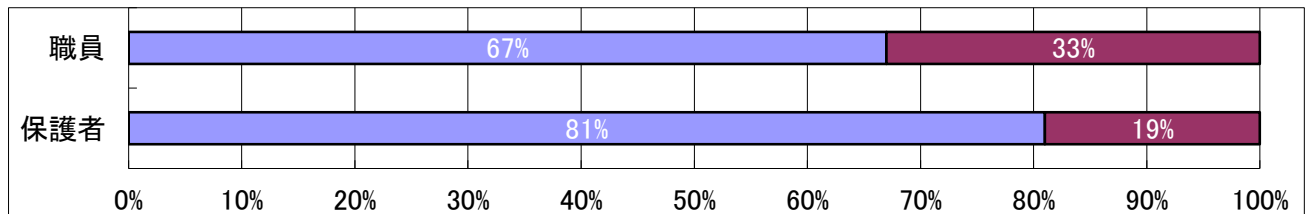
③に関するデータ

職員： 学校報や学年通信、HP等で、保護者・地域に学校や生徒の活動の様子を効果的に伝えていきますか。(3.8→3.7)  
 保護者： 学校報、学年通信、ほけんだよりなどのおたより、学校ホームページ、その他の機械を捉え、保護者や地域へ情報発信がなされていると思いますか。(3.7→3.7)



職員： 地域や保護者、保育所や小学校など関係団体との連携協力した取組が機能していますか。(学校運営協議会、コーディネーターの活用等)(3.7→3.7)

保護者： PTA、学校運営協議会、小中連携、学校支援コーディネーターとの連携など、「地域とともにある学校づくり」が行われていると思いますか。(3.8→3.8)



■ よい      ■ だいたいよい      ■ やや不十分      ■ 不十分



11月  
「チャレンジ55+」  
報告集会

各グループの活動と、これから南中生が何をすべきかの話し合いを行いました。3名の地域アドバイザーの皆さんが、各グループの話し合いにも入って「地域の生の声」を聞かせてくださったことで、生徒たちは更に「地域の様子を自分事として捉え、どのようにしていくべきか」を真剣に考えることができました。会の最後には、温かい感想・講評・助言をいただきました。



11月 PTA教育講演会  
「少年・少女よ。荒野に出て花を育てよ。」

仙台育英学園硬式野球部部长  
猿橋 善宏 氏



10月 小中歌声交流会(小中連携)  
「南中祭」「学習発表会」で歌う予定の合唱曲を、南小5・6年生と南中全校生徒で披露し合いました。

## 2 自律の心と健康な体を育む【徳・体】

生徒の状況	自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
生徒が自律した生活習慣を身に付け、多様性を尊重しながら、安心・安全で心身共に健康な学校生活を送っている。	中間	概ね良好	概ね良好
	年度	概ね良好	概ね良好

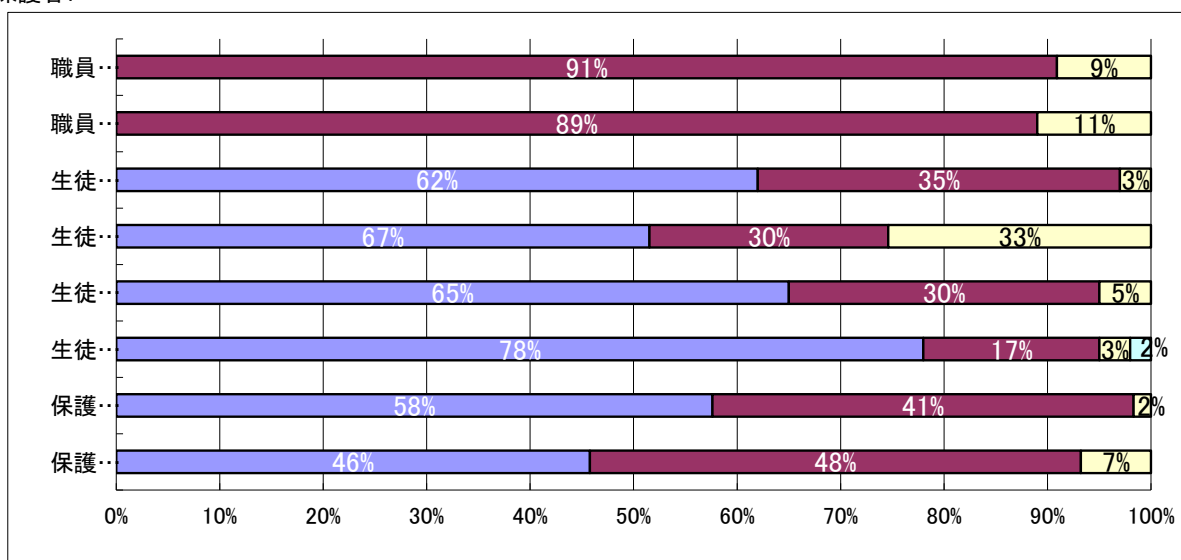
**【中間(→年度)】**  
 1年生は入学してすぐにフォーサイトの使い方を3年生に指導してもらい、スムーズにスタートすることができた。「自律と共生」については、生徒も保護者も数値が良好であるが、職員の意識との差がある。職員が求める「自律と共生」を具体的に示していきたい。メディアコントロールについては、生徒の評価は高いが、保護者の数値が著しく低くなっている(ネガティブな回答が6割)。今後も、保護者に対する啓発を続け、家庭での見守りを求めていきたい。また、生徒に対してもフォーサイトを活用して時間の使い方を管理することなども含めて指導を継続していきたい。

**【年度(→次年度)】**  
 「自律と共生」に関しての職員、保護者、生徒の三者のデータに依然として大きなギャップがある。まずは職員間でそれに向けての具体的な行動基準を共有し、生徒に指導していきたい。また、自己評価の際にもその具体的な行動についての評価となるように文言などを整えていく必要性を感じている。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			中間	年度
(3)望ましい集団生活・生活習慣	⑤ 自律と共生	スローガン「あいさつ・歌声・拍手」の実現 生徒主体のルールづくり 異学年交流の推進 フォーサイトの活用 Q-Uの実施と活用 規律ある学校生活 安全で望ましい生活習慣 3つの「み」	3	3
	⑥ 心身の健康づくり	教育相談活動の充実 メディアコントロール力の育成 情報モラル指導の工夫 健康への意識向上		

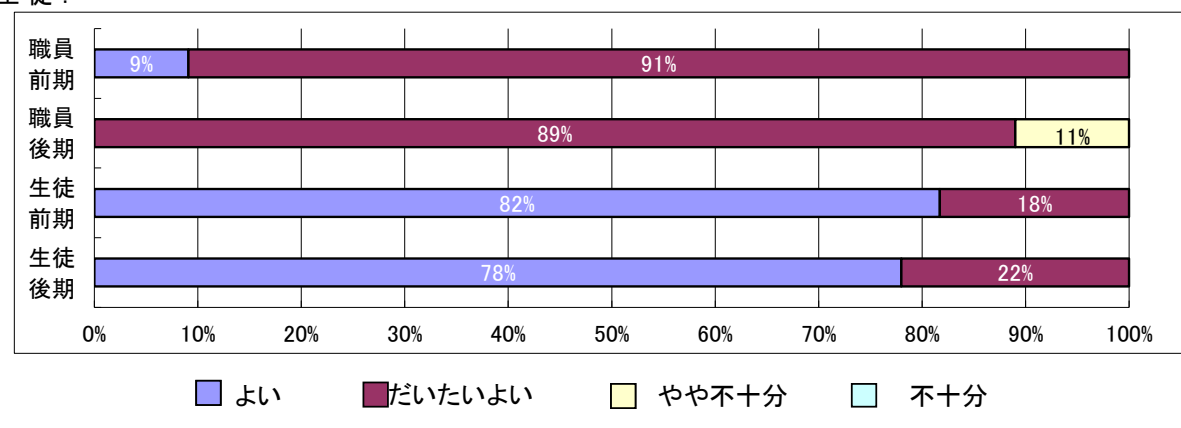
### ⑤に関するデータ(1)

職員：「自分で考え判断し、行動すること」【自律と共生】を意識させながら、学校生活を送るための支援を行っていますか。(2.9→2.9)  
 生徒：あなたは、「自ら考え判断し、行動すること」を意識した学校生活を送っていますか。(3.6→4.2)  
 生徒：あなたは、生徒会テーマ「瞬輝明乱」を意識してよりよい学校をつくろうと、委員会活動や生徒会活動に積極的に取り組みましたか。(3.6→3.7)  
 保護者：生活指導、フォーサイトの活用、「あいさつ・歌声・拍手」の取組、生徒によるルールづくりなどにより、「自律と共生」が実現されていると思いますか。(3.6→3.4)



### ⑤に関するデータ(2)

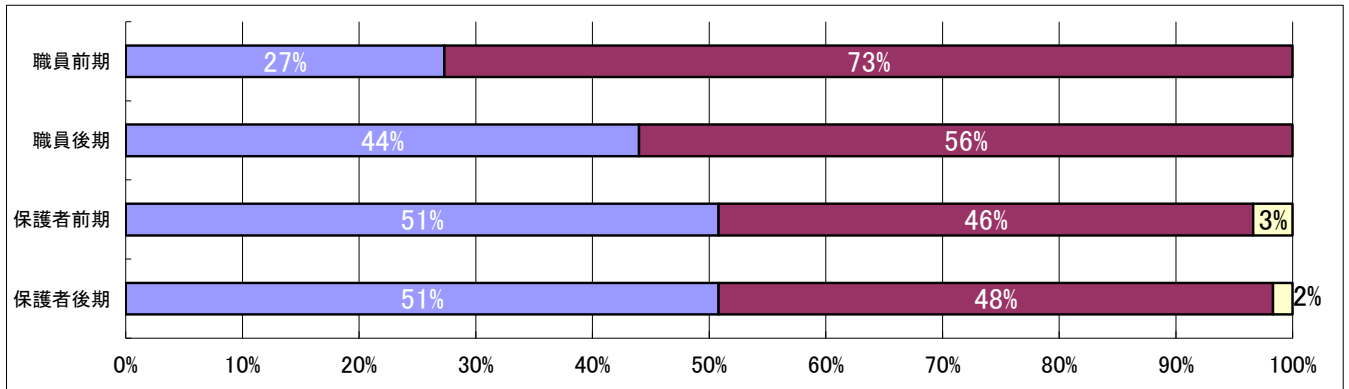
職員：生徒指導の3機能(自己存在感・自己決定・共感的理解)や3つの「み」(みつめる・みとめる・みとどける)を生かした子どもとの関わりや学級経営ができていますか。(3.1→2.9)  
 生徒：あなたは、「違いを理解し、共に支え合って」お互いのよさを認め合いながら、協力してよい学級をつくろうと努力できましたか。(3.8→3.8)



⑥に関するデータ(1)

職員：教育相談の充実や関係機関との連携を図り、いじめ・不登校防止や生徒指導上の課題解決に努力していますか。(3.3→3.4)

保護者：教育相談、スクールカウンセラー活用、健康指導、情報モラル指導などにより、「心身の健康づくり」が行われていると思いますか。(3.5→3.5)

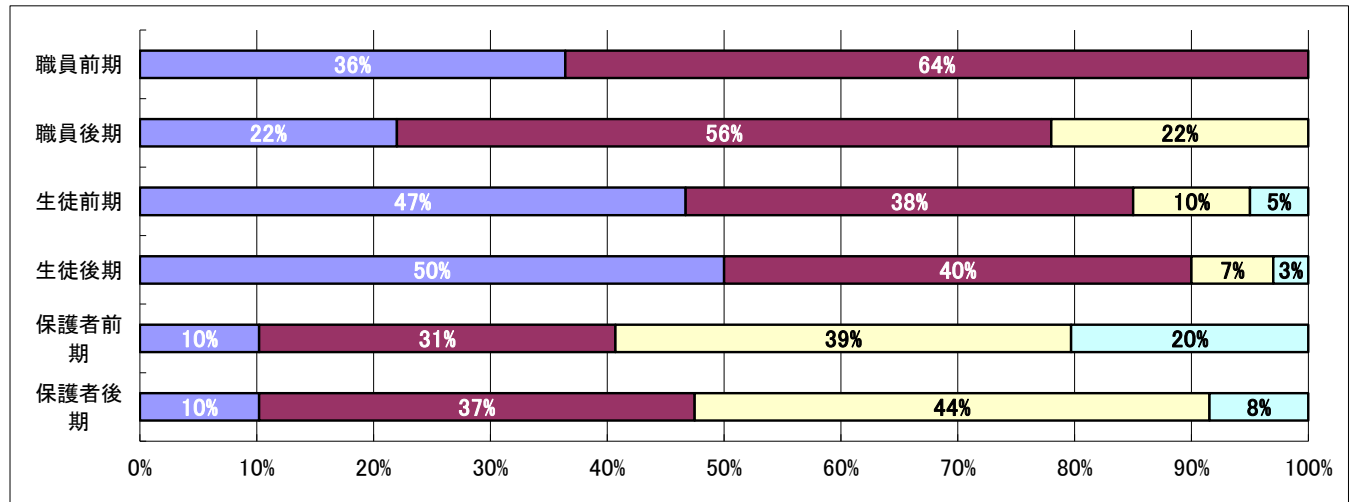


⑥に関するデータ(2)

職員：「メディアコントロール」や「虫歯」等の健康課題についての取組を行っていますか。(3.4→3.4)

生徒：あなたは、家庭で決めたメディアの使い方のルールを守り、メディアコントロールを意識した生活ができていますか。(3.3→3.4)

保護者：ご家庭で、メディアコントロールを適切に行っていますか。(2.3→2.5)



4月、3年生が1年生へ「フォーサイト手帳」の使い方をレクチャー。これを活用して自律を目指します。



「自律」の一環として、昨年度から生徒主体で取り組んできた「ルールメイキング」。何度も話し合いやアンケート調査を行ってまとめた新ルールの内容を、校長へ説明する生徒会副会長。この後、校長の承認を得て新ルールでの取組となりました。



メディアコントロールは南中生の大きな課題の一つ。7月に「メディア集会」を行って、情報モラルを含むメディアの使い方について確認しました。夏休み中には、学区内の保育所を訪問し、園児にメディアコントロールの大切さをクイズ形式などで伝えました。園児も学ぶことができ、中学生にとっても意識の高まりが感じられました。



南中のあいさつをよくしようと、毎朝「体育生活委員」が生徒玄関前であいさつ運動をしています。そこへ月に1度、ハチ公エンジェルの皆さんが来校してくださり、あいさつ運動を盛り上げてくださっています。あいさつだけでなく、登校する生徒へ声をかけてくださり、地域の方々との交流も深まっています。

■ よい ■ だいたいよい ■ やや不十分 ■ 不十分

### 3 確かで深い学びを育む【知】

生徒の状況	自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント	
教師と生徒が共に、「直耕タイム」を中心に主体的・協働的な授業を展開している。教師の授業力向上のための研究が推進されている。生徒は基礎学力を身に付け、より深い学びを自ら求めている。	中間	概ね良好	概ね良好	「直耕タイム」の充実に引き続き取り組んでほしい。生徒主体の学び合いを更に進め、深化を期待したい。学力向上については、授業の中でしっかりと理解したことを家庭学習で定着させることで、まず基礎・基本が身に付くようお願いしたい。学習にうまく取り組むことができない生徒を、取りこぼすことなく見てほしい。力のある生徒たちで、苦手な生徒を引っ張ってほしい。
	年度	概ね良好	概ね良好	授業の様子やヒアリングなどから、先生方が、生徒の学びが意欲を高めるために授業の工夫改善に取り組んでいることが伝わってくる。直耕タイムの取組もよい。先生方が求めている授業のレベルが高いと感じられる。引き続き、その高みを目指して努力してほしい。

#### 自己評価の改善策と

##### 【中間(→年度)】

(4)について→今年度の新たな試みである生徒主体、生徒司会による学び合いの時間「直耕タイム」については、全ての教科で共通実践を進めることができた。1学期取り組んだ成果と課題を夏季休業中の校内研修会で話し合い、深い学び合いにしていくための取組を2学期の共通実践事項として進めていく。また、教師による「授業を見合う会」を設定し、教科の枠を越えて互いに学び合い、授業改善に努めていきたい。  
 (5)について→家庭学習に関する質問では、肯定的回答の数値が職員、保護者、生徒ともに5%以上上がった。レベルアップタイムやコラム、ドリルの取組を今後も継続したい。家庭学習やコラムに取り組めない生徒については、学年部全職員で協力して指導していくことを共通理解のもと実践したい。

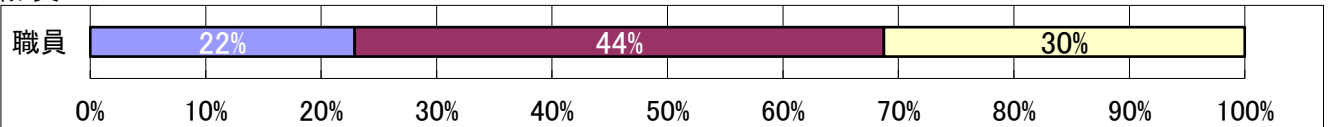
##### 【次期(→次年度)】

(4)について→夏季休業中の校内研修会で確認したことをもとに、様々なスタイルでの「直耕タイム」に各教科で取り組んだ。各種訪問、視察、授業を見合う会で教科の枠を越えて研修し合う機会が多かったが、数値は前期と大きく変わらなかった。今後も、深い学び合いや確かな学力を付ける授業を目指し、粘り強く取組を継続していきたい。  
 (5)について→家庭学習に関する項目の数値は、中間評価からほぼ変わっていない。家庭学習やコラム、南中ドリルの取組について、全職員で協力して指導していくことを共通理解したつもりだったが、共通実践につながらなかった。全職員で取り組めるような体制作りが必要である。

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			中間	年度
(4) 授業改善	⑦ 学ぶ意欲を高める授業の工夫	教科を越えた授業研究(会)の充実 授業力向上のための研修の工夫 南中型授業の定着 「直耕タイム」の充実 評価活動の充実 3つの「あ」・3つの「わ」	3	3
(5) 学力向上	⑧ 基礎・基本の定着と学力向上	学習環境の整備 学習習慣の確立と家庭学習の充実 南中ドリル・コラム学習の充実 調査結果の分析と活用 課題の焦点化・明確化	3	3

#### (4)に関するデータ

職員：学習形態・指導方法の改善に努めながら「直耕タイム」の充実に回り、学びを深めたり高めたりすることができていますか。(2.9→2.9)

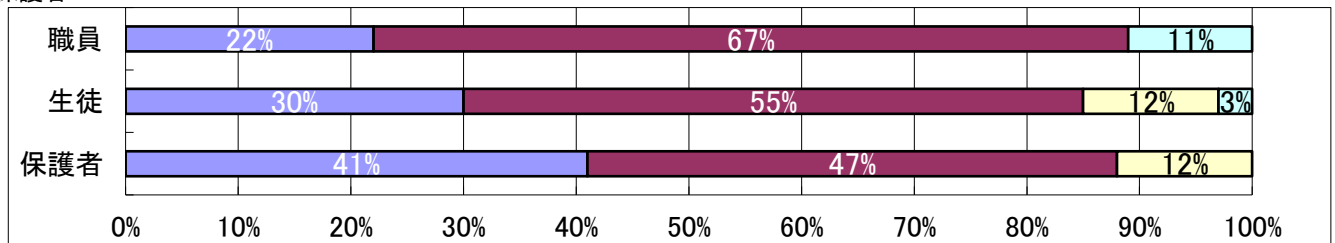


#### (5)に関するデータ

職員：諸調査やテスト等の結果を活用し、授業や回復指導などによる個に応じた指導を行っていますか。(3.1→3.0)

生徒：PDCAサイクルを意識した家庭学習に取り組んでいますか。(3.1→3.1)

保護者：南中ドリル、コラム学習、レベルアップタイムへのアドバイスなどにより、基礎・基本の定着と学力向上が進んでいると思いますか。(3.3→3.3)



夏季休業中の校内研修会



生徒主体の「直耕タイム」

←校内研修会で、様々なスタイルの「直耕タイム」に取り組んでいくことを確認した。2学期の各教科の取組により、生徒は自分たちで話し合いや学び合いを進めていくことに慣れてきた。



「特活」「総合的な学習の時間」「南中しゃべり場」で全校による「直耕タイム」→学級や全校という全体での話し合いで、いかに教師が関わり深めていけばよい

■ よい ■ だいたいよい ■ やや不十分 ■ 不十分

#### 4 地域・社会に踏み出す力づくり【未来】

生徒の状況	自己評価A	学校運営協議会評価	学校運営協議会委員のコメント
生徒が地域との交流と連携を通して自己の生き方を見つめ、未来の自分やふるさとの在り方を考えている。未来市民として必要な資質・能力を学校生活や集団生活の中で身に付けようとしている。	中間 良好	良好	「チャレンジ55+」は、南中を代表する活動であり、南中のよさでもある。生徒もほぼ全員が達成感をもっている。今後も継続してほしい。「子どもハローワーク」に参加する生徒が昨年度より増えてきていると聞いている。今後に更に期待する。運動会、激励会、南中祭などの行事や新しい「しゃべり場」などの活動を通して、役割を果たして人間関係を構築したり達成感を得たりして、成果が見られると感じている。小中一緒に活動できていることもよい。保育所も含め、地域とともに活動できている。地域に根ざしたキャリア教育が非常によくなされているので、これからも続けていってほしい。
	年度 良好	良好	「チャレンジ55+」などの取組がよく、保護者と生徒の評価が高くなっている。「子どもハローワーク」への参加が増えたのは、生徒たちが学校では経験できない様々なことに関心を持ち、体験してみたいという思いをもった結果ではないかと考えられる。(7)人間関係形成について職員の評価がやや低いのは、更に活躍してほしいという願いがあるからではないかと考えられる。今後も、生徒たちがいろいろな世界を知り、様々な経験ができるよう働きかけていってほしい。

##### 【中間(→年度)】

自己評価の概要と学校の改善策

(6)の「地域に根ざしたキャリア教育」の推進では、保護者、生徒の評価が高く、一般に「見えにくい、分かりにくい」と評されるキャリア教育の取組が理解されているものと思われる。その一方で、職員からは「痒い所に手が届いていない」という反省が挙げられている。この点を踏まえ、職員間の意思の疎通を徹底し、全校一丸となった活動としてまとめられるようにしたい。

(7)の「生徒会活動・行事」について、教師、保護者、生徒を比較して全体的にポイントが高い。今年度、「南中しゃべり場」「南中参観」「生徒司会」など他者と関わる機会が多くあったことが理由と考えられる。しかし生徒の数値は肯定的な回答が他に比べて少し低く、特に低かったのは1年生であった。入学してで中学校に慣れることが先決であり、生徒会や委員会への参加が積極的と言いつれ部分があったかとする。2学期以降に期待したい。

##### 【次期(→次年度)】

(6)について、データの数値としては、少数の生徒を除いて肯定的な評価が大半であるものの、自由記述による具体的な評価では、生徒と職員の捉え方に差異があることが示されている。特に「チャレンジ55+」の活動に関しては、抜本的な見直しを加えなければならない状況にあることが、職員の冷静な判断と評価に表れたと考える。また、担当者と全教職員との連絡調整の不備も問題として挙げられている。課題として把握している内容について年度内の改善策を講じることに努めたい。

(7)について、2学期は南中祭や合唱祭などの行事や全校で話し合う機会が1学期よりも更に増えたことが、数値が上がった要因と考えられる。3年生に至っては全員が「4」評価を付けており、達成感や充実感が得られていることが分かる。保護者や生徒と比較して教職員の数値は低い。行事だけでなく各委員会活動の取組に差が出ているので、生徒会執行部と各委員会の連携を強化し、次年度は委員会活動への指導・支援にも力を入れていく。

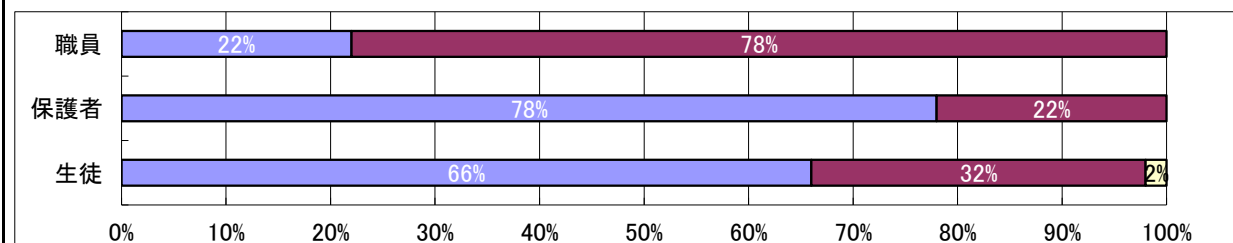
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			中間	年度
(6)生き方指導	⑨ 地域に根ざしたキャリア教育	「チャレンジ55+」の充実・発展 地域行事への参加 地域人材の活用 公民館との連携 キャリア講話 高校学習会 職場見学・訪問 職場体験活動 子どもハローワーク	4	4
(7)人間関係形成	⑩ 社会につながる集団活動	創意工夫のある生徒会活動・学級活動 リーダー育成 縦割り活動の推進 小学生との連携 感動・達成感のある学校行事の工夫 考え議論する場の充実	4	4

##### (6)に関するデータ

職員：生徒が自らの進路や生き方を主体的に考えるための進路学習(職場体験、進路通信等)や地域貢献活動(チャレンジ55+)を指導・支援していますか。(3.2→3.2)

保護者：チャレンジ55+、職場体験学習、地域行事への参加、ボランティア活動など「地域に根ざしたキャリア教育」がなされていると思いますか。(3.7→3.8)

生徒：あなたは、職場体験、企業訪問、チャレンジ55+などの地域貢献活動を通して、自分の生き方を考えることができましたか。(3.6→3.6)



今年も地域の皆さんにご協力いただいて「チャレンジ55+」の活動ができました。



やすらぎふるさと班 防災チームは、二井田地区の危険箇所を現地で確認し、防災マップを作成しました。介護チームはセミナーを受講し、地域の高齢者宅を訪問して交流しました。

未来キッズ班 毎年恒例となっている保育所での歯磨き指導を行いました。今年は新しく、手作り野球グッズを持参し一緒に野球遊びも行いました。



大地の恵み班 りんごを収穫し学校祭で販売しました。規格外枝豆を再利用した肥料づくりにも挑戦しました。



レジェンド班 手作りの紙芝居「ハチ公物語」を保育園児に読み聞かせました。



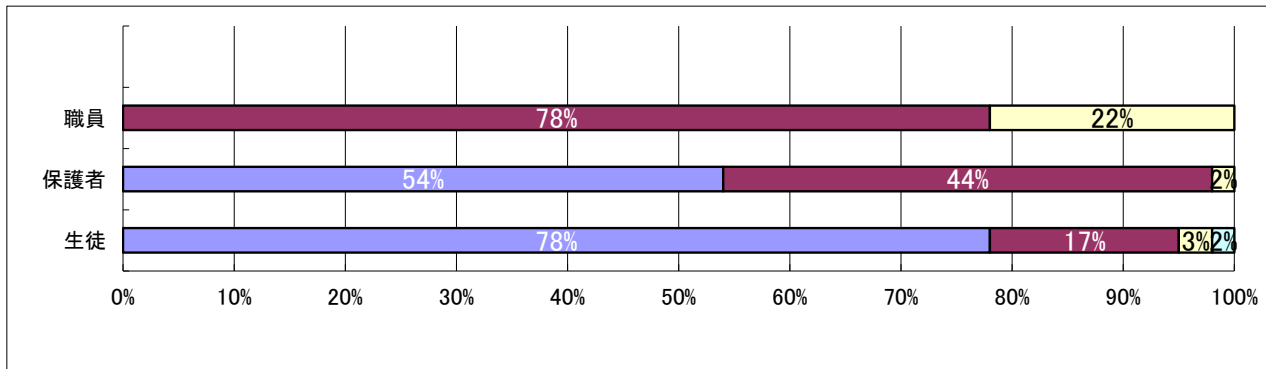
■ よい ■ だいたいよい ■ やや不十分 ■ 不十分

(7)に関するデータ①

職員：生徒会テーマを意識した、自主的、自治的な生徒会活動が行われるように指導・支援していますか。(3.2→2.8)

保護者：生徒会活動、学校行事、たてわり活動、南中しゃべり場などの集団活動により、「社会に踏み出す力」が育成されていると思いますか。(3.5→3.5)

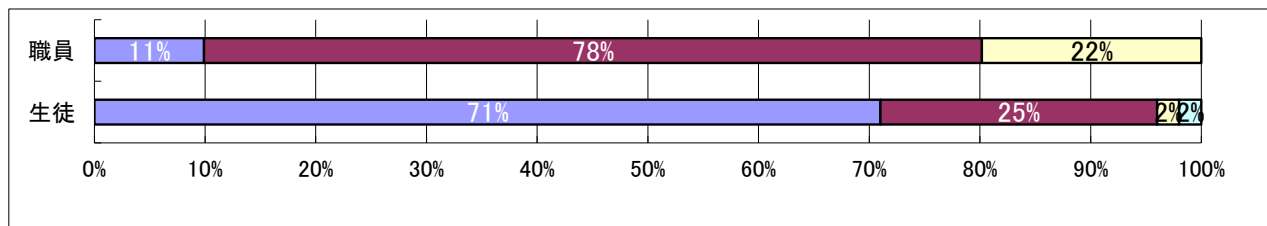
生徒：あなたは、生徒会テーマ「瞬輝明乱」を意識してよりよい学校をつくろうと、委員会活動や生徒会活動に積極的に取り組みましたか。(3.6→3.7)



(7)に関するデータ②

職員：よりよい人間関係づくりにつながる感動を呼ぶ行事や考え議論する活動を指導・支援していますか

生徒：あなたは学校行事で自分の役割を果たそうと努力し、達成感を感じることができましたか。(学校祭等)



昨年度まで冬休み中に期日を決めて一斉に「除雪ボランティア」を行っていたが、除雪に限らず自分たちができるボランティアに取り組むこととした。写真左から。4月、地区ごとに計画の話合い。活動内容と期日を、カレンダーを見ながら相談した。→地区住民運動会へ、運営協力、選手として参加。二井田、真中とも、参加中学生がとても多かったと喜んでいただいた。→7年ぶりに復活した子ども神輿巡行に、当該地区と隣の地区の中学生が参加協力。→夏休み中に道路と町内会館の除草作業を行った。→冬休み中に町内会館周辺や独り暮らしのお年寄り宅の除雪作業を行った。



初の小中合同運動会「みなみ大運動会」。中学生の縦割り色別応援パフォーマンス。異学年交流は今年、小学生にも広がった。運動会、南中祭は、成功までのプロセスと、終了後の達成感で大きな感動につつまれる、重要な行事である。



地域人材の活用。「地域学校協働活動」の一環として、地域在住の講師に方に、国語(書写)の学習支援をお願いしました。プロのご指導を受けてよい作品が仕上がった。



キャリア講話。例年は1名の講師による講話を聴いたが、今年度は、大館市内でお仕事をしている、南中の卒業生と県外からの移住者、合わせて4名によるトークセッション形式で実施。年代も幅広く、とても身近な内容に、生徒たちも真剣に聞き入った。中学生の「今」につながる経験や思いをたくさん聞かせていただいた。

■ よい ■ だいたいよい ■ やや不十分 ■ 不十分